



植生学会シンポジウム

近接リモートセンシング による植生研究

2025 12.13. SAT.
13:30~16:00

参加無料 事前申し込み

※ 参加申込の方法については後日アナウンス予定

内 容

近年、UAVをはじめとする近接リモートセンシングによる高精細かつ広範囲のデータ取得が可能となり、植生研究に欠かせない存在となりつつあります。本シンポジウムでは、UAVやLiDARを用いた植生研究の最前線を紹介し、新たなアイデアの創出と植生学の発展の可能性について議論します。

空からの視点とフィールドをつなぐ植生研究

開催日時

2025年12月13日（土） 13:30~16:00

開催方法

ZOOMを利用したオンライン開催

申込サイトはこちら<https://forms.gle/CtNhAciSu7CcDtvXA>

プログラム

趣旨説明：吉田 圭一郎（東京都立大学）
司会進行：若松 伸彦（日本自然保護協会）

- ▶ 石鎚山山頂南側斜面のシコクシラベ林の構造変化
比嘉 基紀（高知大学）
- ▶ リモートセンシングと現地調査とでみる北上山地薬師岳の植生変化
澤田 佳美（森林総合研究所）
石田 祐子（生命の星・地球博物館）
- ▶ 富士山北西部の森林限界上部における植生と微地形の関係
手代木 功基（金沢大学）
- ▶ UAVを用いたヤドリギの検出と宿主木活性への影響評価
山科 千里（東京都立大学）
- ▶ SLAM技術を用いた低価格3Dスキャナーによる省力的な毎木調査
濱 侃（千葉大学）